

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2019年 2月 6日

事業所名：アニマートかわにし

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	プレイルーム(勉強コーナー含む)と別に運動室を開設し、勉強中の児童が集中できる。又十分に運動できるスペースを確保している	はい…8名 いいえ…1名 どちらともいえない…7名 今年度から広くなり ゆったり過ごせて子供も喜んでいると高評価を受けている	スペースとしては十分だが、より集中できより安全に活動できるように収納の工夫をする
	2 職員の適切な配置	その日の利用人数や個別配慮の必要な児童数に応じてスタッフを配置している	はい…6名 いいえ…2名 どちらともいえない…8名 月に1回でもいいので専門の訓練等があれば…という意見もあった	室内への掲示・HP等を通じ、職員の資格を公表 今後も外部・内部の研修を行い、専門性を高めていく
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	学習しやすい環境(区切りのある机・安定した椅子など)を整備するとともに、その日の利用者に合わせ視覚での伝達やパーテーションで区切るなど行っている	はい…8名 いいえ…2名 どちらともいえない…6名	保護者に事業所に来てもらう機会が少ないためその機会を増やす
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	整理整頓、見せるものと隠すものを区別した収納で落ちついて過ごせるようにしている	今年度より2倍の広さになり、多人数が苦手な子供の保護者の方からも静かに過ごせるスペースが喜ばれている	広くなったことや区切りがある事で目が届きにくい場面があるため十分に気を付けて支援していく
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	療育後にその都度スタッフ間で振り返りや課題等を話し合うが、ミーティングという形はあまり取れていない現状	/	定期的な会議とその中での業務改善への参画を意識して取り組む
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	できていない	/	第三者評価委員会等の設置が課題
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	内部研修の実施、外部研修への参加を行っている	/	内部での研修が定期的に実施できていないため定例化する
適切な支援の	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者からも直接話を聞き個別支援計画に反映	/	学校との連携を望む声が増えており、今後はアセスメントの際に学校からの聞き取りを行うようにする
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個々の状況に合わせて計画を実施している	「要望は計画の中に入れられている」と評価をうけている	よりアセスメントを正確に行うことで、個別の課題を明確にしていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
提供	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	必要に応じ、できる限り学校、保護者の意見を聞きスタッフ会議にて具体的支援内容を決定し記載		地域との連携や他の事業所との連携が弱いので今後の課題とする
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	児童発達支援管理責任者が日々の支援に入り、計画に沿った支援が行えるようにしている。支援終了後、その日の振り返りを行いスタッフ間で共有する	75%保護者が「出来ている」と評価 その他は「わからない」	毎日の支援開始前ミーティングの徹底が課題
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	一カ月の大まかなプログラムは管理者、児童発達支援管理責任者で立案し、スタッフに意見を交えて決定する	9割以上の保護者から「プログラムが固定化しないよう工夫している」と評価されている 1名から「平日のプログラムにバリエーションがもう少し欲しい」との意見もあり 長期休暇では午後ゆっくり横になる時間をとれたことで体調の調整が上手く出来て喜ばれている	運動療育を望んで当事業所を選ばれた保護者も多いので今後さらに専門的に運動療法に取り組めるようスタッフも資格取得する
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は下校時間を考えての個別プログラムを立て、休日(祝日)は外出、長期休暇は活動と休養のメリハリをつけて支援を行っている		体調管理が難しい児童に配慮しながら個々に合わせた療育を行う。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	一カ月の予定を立てる時に活動が偏らないよう、又新しい活動に取り組めるよう工夫している		運動をメインにしながらもレクリエーションなど工夫しながら行う。 宿題に集中して早く終わらせるよう改善工夫が必要
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	個別に支援・配慮が必要な児童についてはその日の担当を決めるなど、打ち合わせをしている。支援内容・プログラムについても、何時からどのように行うかを打ち合わせするようにしている		怪我が多い児童の保護者から過去に苦情がきたことがある為、今後も毎日の担当決め、目の配り方に気を付け、怪我の無いように支援を行う。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後、概ね毎日行っている		記録に残していないため、今後残していく。その日のうちにヒヤリハットがなかったか話し合う。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	その日のうちに担当した職員が記録し、スタッフ間でも話し合いを行っている		記録の仕方やポイントについては統一や研修も必要のため今後改善していく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に一回(新規利用から3カ月は毎月)又は必要に応じてモニタリングを行っている	保護者の方と話し合いながらより具体的に達成できる到達目標を設定していく
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へり参画	サービス担当者会議に参加していないが、相談支援事業所との連携をとり、報告・相談を行っている	今後はサービス担当者会議へ参加させてもらえるよう依頼する
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当者なし	該当者なし
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当者なし	該当者なし
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	保護者を介して情報を得ている	今後、児童発達支援事業所から移行してくる場合は、事前に支援内容について情報を共有できるよう努める
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	現在対象となる児童はなし	今後あった場合、保護者や相談員と相談の上必要な場合情報の提供を行う
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	今のところ機会なし	研修等の情報を得るようにし、参加する
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	近くの公園で地域の子どもたちや児童クラブの子どもたちと交流する機会はある	はい・・・2名 いいえ・・・7名 どちらともいえない・・・7名 活動時間も短く、個別療育・集団療育を行うとなかなか交流をする機会が少ないのが現状 長期休暇や短時間下校の時など、状況を見て取り入れていく

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	イベント行事の際、近隣商店の協力や参加をしてもらう機会が増えてきている		今後、地域の行事や清掃活動に参加し、地域住民との交流を持って行く
保護者への説明責・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に行っている	はい・・・14名 いいえ・・・1名 どちらともいえない・・・1名 その日のプログラムを連絡なく変更した点に不満ありとの回答	今後も丁寧に説明していきたい
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	半年又は一カ月ごとの見直し時には丁寧な説明を心がけている	保護者の希望が計画に反映されていると評価されている	今後はさらに各子どもの課題や発達段階に合わせたサービス計画を作成する
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	十分には出来ていないが、相談を受けたり、送迎時の話の中で望ましい対応について話をしている	はい・・・5名 いいえ・・・4名 どちらともいえない・・・7名	職員の知識・対応力を向上させるための研修の機会を増やす
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	送迎時に話したり、電話をして様子を伝えながら課題についても共通理解ができるようにしている	はい・・・10名 いいえ・・・1名 どちらともいえない・・・5名	送迎時に会うことが少ない保護者の方とのコミュニケーションがとれるようにメール、電話を利用していく
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	いつでも相談してもらえるようコミュニケーションを日頃からとっている 子供がいない午前中に来てもらい、ゆっくり話を聞くようにしている	はい・・・5名 いいえ・・・4名 どちらともいえない・・・7名 常に相談に来る保護者の方は決まっており、「いつも相談できて助かる」と評価して頂いている	どの保護者にも相談に来てもらえる事業所であるよう、常にコミュニケーションがとれるようにする
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	保護者会は一年に一回、事業所主催で行っている 夏祭りには家族で参加してもらい交流をはかっている	はい・・・5名 いいえ・・・6名 どちらともいえない・・・5名 忙しいため、保護者同士の交流は必要ないという保護者も多い	保護者会の回数を増やし、必要と感じる人同士の仲立ちをする
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	職員で対応できる事は職員間で周知対応する 同時に、相談支援事業所に相談・報告している	はい・・・9名 いいえ・・・1名 どちらともいえない・・・6名	苦情を言う背景や思いを理解して受け止めるとともに、苦情が出ないような支援に今後取り組む
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	理解しにくい・忘れられると思われる保護者の方には連絡帳や手紙を書いて渡したうえ、電話やメールを活用	はい・・・11名 どちらともいえない・・・5名	今後も継続して行う

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	不定期ではあるが通信を発行 行事、毎日のプログラムは前月中旬に(場合によっては早めに)保護者へ知らせている	はい・・・11名 いいえ・・・1名 どちらともいえない・・・4名	ホームページ、ブログ、通信をこれからももっと活用する
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人ファイルは鍵のかかるロッカーに保管 不要になった情報はシュレッダーにかけるなど秘密保持の徹底を行っている	はい・・・14名 どちらともいえない・・・2名	今後も継続して行う
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	マニュアルは策定しているが、保護者の方には周知徹底はできていない	はい・・・1名 いいえ・・・3名 どちらともいえない・・・12名 策定されているかどうかわからないほとんどの保護者の方が「どちらともいえない」と回答	今後、ホームページ、通信を通して周知していく 職員には会議等で研修を行う
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回、避難訓練を実施	はい・・・4名 いいえ・・・1名 どちらともいえない・・・11名	訓練を行っている事が伝わっていない事も多いため、事前の予定の知らせ、事後に様子の報告など徹底する
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	社内研修を実施		今後も継続して行う 職員に注意の仕方など虐待にならないようその都度適切な対応を指導する
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・・・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	1.切迫性 2.非代替性 3.一時性の3要件を満たす場合にのみ拘束の可能性あることを該当する児童の保護者に説明し、同意を得ている		同意はもらっている児童はいるが、拘束しなければいけない可能性がほとんどない為計画には記載しておらず、今後必要に応じて対応していく
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	該当している子どもは現在のところいない 契約時やアセスメント、モニタリングで保護者の方から聞き、確認している		今後食物アレルギーのある児童が利用する際は、保護者に依頼し医師の指示書をいただき対応する

区分		チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	支援の終わりにヒヤリハットがなかったかスタッフ間で話し合い、その都度記入するようにしている		今後も継続して行う